

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	東大阪市加納2丁目12番7号		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年9月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しく・自由に・ありのままに…の理念に基づき、ご利用者様が望まれるケアを常に心がけサービスにあたる。  
 ご利用者様にとって、ここが一番居心地の良い場所であると思っ頂ける様な施設にしていきたいです。  
 ご利用者様お一人おひとりを尊重させて頂きながら、最後までその人らしく生活をして頂ける介護を目指していきます

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業母体の(有)さざなみは、大阪府下に7事業所、京都府下に2事業所のグループホーム・住宅方有料老人ホーム・小規模多機能型施設や、介護関連の資格取得を支援する職業訓練校を運営しており、当事業書は2003年6月に開設された。「一人ひとりの存在と尊厳を受け入れ、自分らしく生活できる環境を整える」を念頭に置き、楽しく・自由に・ありのままに、有する能力を最大限に活かした生活の具現化に、事業所全体で取り組んでいる。近年は管理者の交代や利用者のADLの低下と人数の激減で、行事・イベントの内容には制限があるが、個々の趣味や好み(歌を歌う・風船バレー・花火)を取り入れ、生活に潤いや豊かさを味わえるように工夫している。終の棲家の暮らしの要望に応え、協力医院や訪問看護師との連携体制に、利用者・家族は安心と信頼を寄せている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ワッハハ・明るく笑えば広がる笑顔」事業所理念のもと職員は入居者様と接している。朝礼では唱和し、勤務の中で共有しながら、常に理念の実践に心がけている。	「楽しく・自由に・ありのままに、有する能力を活かし、家庭的な暮らしで地域との交流・連携を図る」の趣旨の法人理念と事業所理念「ワッハハ明るく笑えば広がる笑顔」と、今年目標「心のゆとりで楽しい職場をつくる」をフロアに掲げ、毎朝礼時に唱和し意識の徹底を図っている。毎月の職員会議で実践状況や課題を話し合っている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会にも入っており、出来る限り地域の行事には入居者様の負担にならないよう参加させていただけるよう努めています。コロナ禍の影響で、イベントが縮小されているため入居者様との参加は殆ど出来ない。	自治会に加入し、情報は自治会役員である職員から直接得ている。祭りのだんじりの見学や幼稚園児・保育園児との交流は中止となっているが、近隣の散歩時には地域の人と挨拶を交わしている。近々開催される地区の運動会の見学に行きたいとしている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空き室対策に見学会を行っている。まだまだ、見学者は少ないが、継続していく。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症予防で運営推進会議も書面にて報告となっている。6月は対面で行い、包括支援センター・ご家族様に参加して頂き意見を頂いた。特に空き室対策についての助言を頂く事が出来た。	今年度は文書での報告5回と構成メンバー参加の会議を1回開催している。対面開催時には地域包括支援センター職員や地域のグループホーム代表者の参加があったが、自治会代表や地域の方の参加は無かった。運営状況・イベント・事故報告を行い、今後の取り組み内容を記しているが、参加メンバーからの意見収集の記述が無く課題としている。	外部の人の目を通して、取り組み内容・改善課題を話し合う運営推進会議において、地域からの幅広いメンバー参加が望まれる。自治会や民生委員・地域の薬剤師などに呼びかけて構成メンバーの充実を図り、率直な意見・アドバイスを貰い、サービス向上に繋げるよう期待する。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、何かあればすぐに相談にのっていただけるよう連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいます。丁寧に対応される。	市の中福祉事務所に運営や現場の実情を伝え、直近の運営指導や随時指導とアドバイスを得ている。6グループホームの連絡会では、空き室問題の見学会開催の協力を貰ったり、情報交換など連携を取り合っている。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は1階が無人の為、施錠はしている。フロアはしていない。身体拘束の研修は年に2回は必ず行っている。法人では毎月行っているので議事録をスタッフに周知している。	身体拘束適正化指針文書を整え、委員会(3か月に1回)・研修(年2回)で内容や弊害について理解を深めている。研修後は職員全員がレポートを纏め、抑圧感の無い暮らしの支援やスピーチロック対応について検討している。玄関は施錠しているが、エレベーターと階段は自由に行き来が出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の日常の様子を常に見守り、観察しています。異常があればすぐに報告する形をとっています。(打ち身・擦過傷なども)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は内部研修等で制度について学習し、知識を深め、必要性が生じたときは関係機関と連携をとり、活用していくことが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、重要事項や契約書の中身を入居者様や家族様に説明し、わかりにくかったり、不安な点や疑問点を尋ねている。納得を得た上で手続きしていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など下駄箱のところに意見箱において意見要望の収集の機会を設けている。また契約時のアンケートなどからも意見、要望を集める工夫をしている。	利用者(4名)は介護度も高くなり意見の表出が難しく、家族の訪問時や運営推進会議で意見を聞いている。又年1回の家族へのアンケート(職員のケアの姿勢・ホームへの希望など)で意見の把握に努めている。これまで別室で30分程度の面会としていたが、家族の要望で居室での面会を再開する予定となっている。	

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場や個人の提案を聴く機会を持つことによって、職員一人ひとりの意見を大切に出された案件を、誠実に反映できる体制を作るよう心がけている。	月1回の職員会議や、日頃のケアでの気づき・提案など、管理者・リーダーが耳を傾け、意見が出やすい環境を整えている。休憩時間の取り方や夜勤体制の時間設定の見直しの意見に対して検討し改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し実践している。職員一人ひとりの希望にあった勤務体制に沿えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加している。また施設内でも自主的にテーマを決めて研修を行っている。研修費の補助制度や資格などを取得しやすい環境を作り、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会の研修の参加や近隣の運営推進会議に互いに参加し合うことによって、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	新しい環境に馴染まれるよう常に職員が働きかけ、傾聴し寄り添って安心して過ごされるよう取り組んでいます。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されてきた困り事や悩みを家族様の立場にたって、しっかりと受け止め安心していただけるよう連絡を密にして対応するようにつとめる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、家族様の思いをしっかりと汲み取ってどのような支援が必要か、職員間で話し合っ支援が出来るように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は私たちの大先輩である。人格を尊重して学ばせて頂いている気持ちを忘れずにひとつの家族として支えあい、助けあって日々過ごして行くようにつとめる。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られたときは居室で過ごして頂き、のちにフロアで話されています。その際に職員からの情報も聞かれたりして、日常の様子を知って頂いている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近場の入居者様がおられるため、近所の方やお友達が来られ、いままでの付き合いを続けられています。再度お越しいただくよう声掛けし、継続支援に努める。	コロナ渦での面会制限や、利用者夫々の理解度の低下で、馴染みの人・場所の関心が薄れてきている。利用者間との関わりや併設の有料老人ホームの人達と合同のイベント(風船バレー・スイカ割り・花火)を通して、現状の関係性や繋がりを大切にしている。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ一人孤立しないように、職員も間に入ることにより、会話が弾むように支援しています。利用者様同士が常に和み、楽しんで頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用がなくなっても、ご近所の方とは会う機会があり、お互いの近況を話し、いつでも相談にきていただけるように努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者様お一人おひとりの思いや意向に寄り添える支援を心掛けている。 ケアマネと共有している。	利用者の全員が思いや意向を表す事が難しく、日々の何気ない動作や表情に関心をはらっている。本人の視点にたつて「どのような思いか」「何をしたいか」の把握に努め、掴んだ情報は業務日誌や生活記録に記入し、全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活歴を家族様やご本人様よりお聞きして、これまで培われてきた家事やできることを感覚として残していられるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの一日の過ごし方は様々ですが、居室やフロアで思い思いに過ごされている。気づいたことは職員間や職員会議にて共有している。		

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や職員の間で気づいた事をモニタリングをし、職員会議で検討して介護計画に反映して作成している。	ケアカンファレンス・アセスメント(各1か月毎)、モニタリング(6か月毎)を行い、主治医・訪問看護師の身体状態の情報とケース記録・生活記録を参考にして短期6か月、長期1年の計画を作成している。計画作成前の担当者会議に利用者も参加して現状に即した計画作成を行い、身体状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個人ごとに生活記録に記入し、職員間で情報共有を行う。何か問題が発生したときは意見を出し合い、対応、対処方法を検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場その時のニーズに応じて、他の社会資源と連携して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、老人会、他のグループホームの方々と協力しながら地域の行事などにも積極的に参加し、安全で豊かな毎日が過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がおられるときは協力し、すぐに医療を受けられるよう関係を築いている。また協力医療機関とも連携をとりながら定期的に、変化があった時もすぐに連絡をとり、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族の同意を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、内科(1階クリニックの主治医)は月1回、歯科・歯科衛生士は週1回の訪問診療を受けている。主治医の紹介状を得て、家族または職員同伴で眼科・皮膚科・外科・整形外科・循環器科を受診する人もおり、先方の医師から主治医に受診結果を報告してもらっている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の健康管理や様子観察などで、入居者様の細かな変化や気づきを看護師につたえ、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設からの情報はもちろんのことスムーズな退院が出来るように、面会時などに病院関係者と情報交換や相談などに努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に説明している。具体的なことについてはなるべく早い時期に家族様と話し合いをして、協力医療機関や看護師との連携によって家族様に安心して頂いている。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護に係る指針」を入居時に説明し同意書を得ている。利用者が重度化した時は、医師・管理者が状況を説明し、終末期対応の同意書を得ている。現在は全員が転院を希望しており、延命希望者は救急搬送する。看取りケアの研修を実施し、本年は2名を看取った。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として常に急変時の対応や事故発生時の対応について研修している。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会い指導と自施設のみと年2回行っている。地域の人達とも協力体制がとれるよう日頃努めている。今年度はまだ実施出来ていない。	災害時対応マニュアルと「水害時の避難確保計画」と「自然災害時発生時における事業継続計画」を作成し、防災対策の研修などで職員に周知している。ほぼ全員の職員が近くに住み、有事には直ぐに駆け付けられる。水・食パン・冷凍食品・おやつなどを備蓄している。諸般の都合で、令和3年4月の後は、避難訓練を実施できていない。	今後、様々な災害を想定し利用者も参加して年2回以上の避難訓練を励行すること、リストを作成して水・食料など3日～1週間分を備蓄することなど、総合的な災害対策を充実することを望む。



己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりお一人の人格を尊重し、尊厳と権利を守ることを基本にしてプライバシーも尊重した言葉かけを心がけている。常に認知症についての研修もおこなっている。	個人情報保護・接遇のマニュアルを作成し、プライバシー保護・権利擁護・接遇の研修を実施し職員に周知している。入浴時はタオルを掛けて着替える、長靴・エプロン無しで利用者に近い格好で介助する、強制する言葉は使わない、利用者を「ちゃん」付けで呼ばない、などに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人さまの思っていることや意見などを引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりのその人らしい生活が送れるように、個人の気持ちや体調の変化を見届けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、その人らしさの思いを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや力を活かして、入居者様と職員が配膳や食事、後片付けを一緒になって行っている。	業者の献立と食材を利用して職員が交代で調理し、ご飯・汁物を作って提供している。利用者の半分は全介助で、以前の焼肉・寿司パーティーは難しくなっている。年数回はカレー・シチュー・ちらし寿司などを皆で作り、たこ焼き・ホットケーキ・スイートポテトなどの手作りおやつや花見弁当も楽しんでいる。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をその都度記入し、把握して確保できるようにまた状態に合わせて適切に対応出来るように工夫して提供している。食事が取りにくい場合は医療機関と連携して栄養が取れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは利用者様に合わせた声掛けをし、介助している。訪問歯科による週1回の口腔ケアを実施しており、口腔体操や治療など、協力体制のもと行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを確認しながら、プライバシーに配慮した声掛けを実践。出来るだけトイレで排泄したいという気持ちをおもんじて、早めの声掛け誘導に努めている。	利用者全員が日中リハビリパンツ・パッドを使用し、排泄パターンやサイン(立ち上がってトイレの向かうなど)を把握して、全員をトイレに誘導している。夜間は2名がおむつを使用し、2時間毎に見回って全員のパッドを交換している。適切な排泄支援で、おむつからリハビリパンツに改善した人も居る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために毎日の排便を確認し、出来るだけスムーズに排泄できるよう水分や食事量に注意している。運動不足も影響するため、一緒にフロア内を歩いたりして体を動かして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日など決めさせて頂いていますが、利用者様が拒否されたりした場合は無理強いせずに日を変えたりする。気持ちよく入浴されることが一番のくつろぎになるのでそのように支援している。	週2回午後入浴を基本とし、嫌がる利用者は時間や職員を替えている。重度の人も2人介助で湯に浸かっている。時々入浴剤を使ったり、会話したりして入浴を楽しんでいる。利用者の真正面から介助しない、マットを敷いて滑らないようにする、などに留意している。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりお一人の生活習慣やその日の様子を見ながら、ゆっくりと安心して休まれるように心がけている。その日の状態はどんな具合だったか、かえりみて記録している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬について理解しており、服薬については何重にもチェックして確認している。症状の変化については看護師にすぐ連絡し主治医の指示をうけている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のダンスやカラオケなど、少しでも張り合いのある生活が送れるように、行事として花見やひなまつりなど多彩に取り入れて満足していただくように支援している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様お一人おひとりの希望に出来るだけ合わせられるよう買い物や散歩などの外出支援を行っている。季節の行事として夏まつりや山車など積極に出向いて地域の方とのふれあっていたがコロナ禍で中々出来ていない。	コロナ禍と利用者の高齢化・重度化のため、従来の散歩・買い物などの日課や地域行事への参加などは難しくなり、1階駐車場で花火大会をして外気に触れる程度である。歌・風船バレー・運動会などを行って、閉塞感や運動不足解消を図っている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでは、個人でお金を管理していない		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したり、また家族様からかかってきた際は本人様が変わっていただいたりして支援している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やクロスは落ち着いた優しい雰囲気にしており、壁かざり、スナップ写真など展示して利用者様に常に見て頂ける目の高さにて展示している。	居間兼食堂の壁面には、利用者と職員の共作の季節作品(月見・紫陽花・藤・たんぽぽなど)・行事写真や利用者の書道作品などを掲示し、季節感・生活感が感じられる。掃除を徹底し消臭剤で嫌な臭いを無くす、夜も灯して真っ暗にしない、導線に物を置かない、床の水滴は直ぐに拭くなどに留意し、安全で快適な共用空間作りに努めている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にありのままに過ごしていただけるようフロアのソファを動かし、セッティングして仲良くお話ししやすいように工夫する。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具などを置いて、居心地よく安心して過ごして頂くように配慮する。	居室にはベッド・エアコン・カーテンを設置し、換気扇は終日稼働させ、15分毎に窓を開けて換気している。利用者はタンス・椅子・衣装ケース・仏壇・テレビ・家族写真などを自由に持ち込み、居心地の良い空間を創っている。節目のある木の床が、温かさのある家の風情を感じさせる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの動き出せる能力やわかる力を活かし、自立して過ごしていただけるように支援している。施設内での行事には無理のない範囲で参加して頂いている。		